

半導体漫遊記

湯之上隆

⑥5
昨年から今年にかけて(TT)の中心的存在だ
て、エルピーダの倒
産、ルネサスの産業革
新機構による買収、ソ
ニー、シャープ、パナ
ソニックの大赤字や大
リストラが世間の耳目
を集めた。これらの派
手な報道の陰に隠れて
いたが、日本エレクト
ロニクス象徴的な
凋落が、NECCに起き
ている。

1977年には小林
宏治会長が「C&C
(Computer

世界一、日本一の事業次々放出

NECCに何が残る?

NECCは1899年
に岩垂邦彦氏と米AT
&Tの製造部門ウエス
タン・エレクトロニクス
社との合併会社として
設立された。戦前は、
電話交換機などの通信
機器の製造を主な事業
としていたことから旧
電タファミリー(現N
ソコン「PC9800

& Communic
ation)をスロ
ーガンに掲げ「コンピ
ュータと通信の融合」
を企業理念としたこと
を契機に、NECCは情
報・通信を中心とした
総合電機メーカーへま
い進する。

一だった時もあるので
日本国内シェア1位で
あった。

86年には半導体売上
高で世界1位となり、
92年に米インテルに抜
かれるまで6年間世界
1位の座に君臨した。

が、共通しているのは、
08年のリーマン・ショ
ック後に急減すること
である。売上高は3兆
円に、R&D費は最大
値の40%に、社員数は
60%の10万人にまで急
減した。

売上高/R&D費/社員数(最大値で規格化)

02年にかつて6年
間も世界一だった半導
体(システムLSI)
をNECCエレクトロニ
クスとして分社化し

た、NTTドコモがス
マホをソニーと韓国サ
ムスン電子の2社に集

中する「ツート
ップ戦略」を採
用した。この選
に漏れたNECC
はスマホからの
撤退を決めた。
何だかNECC
を見てみると、
玉ネギの皮(し
かもそれは世界
一や日本一の
皮)を外から次
々にむいて捨て
ているように見
える。その結
果、次第に規模
が小さくなって
いった。皮をむ
き切った玉ネギ
に何が残るのだ
ろうか? 日本を代表
する総合電機メーカ
NECCの行く末が心配
である。

(微細加工研究所・所

シリーズ」は、約15年
間にわたって日本のP
C市場を席巻し、全盛
期には日本の「国民
機」とまで呼ばれるよ
うになった。この間の
世界シェアのデータを
筆者は持っている
が、もしあるとした
ら、NECCの98は世界
00年から数年間は、
世界一になり、97年ま
では常に世界トップ3
の最大値を100と
の中に入っていた。日
本半導体メーカーで、
世界の座を獲得した
のはNECCにおいて他
それ、01年(5兆円4千
億円)、98年(3兆4千
億円)、99年(1兆5千
億円)に呼ばれる携
帯電話においても20
人)にある。それ以外に
も小さなピークはある

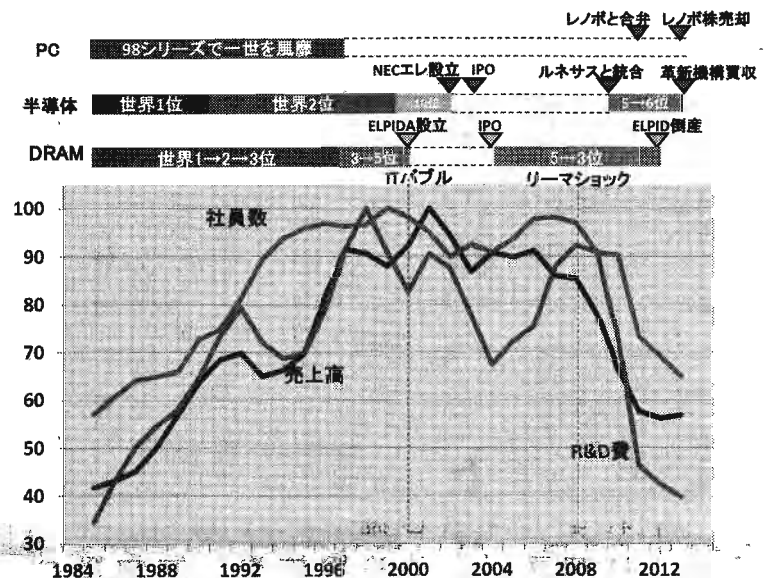


図1 最大値で規格化したNECCの売上高、R&D費、社員数
出所:NECCのIR資料をもとに筆者作成